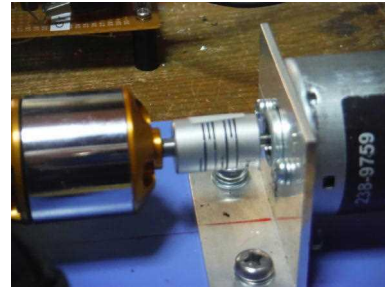


ブラシレスモーターによる発電改良実験

2024.11.16ユビキタス発電研究会 田村良一

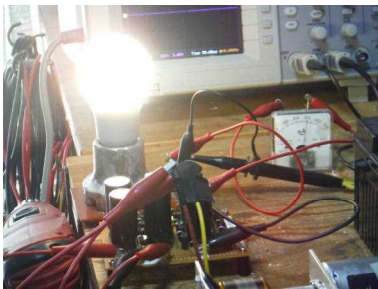
前回に引き続き、ブラシレスモーターによる発電実験を継ぎ手及び、モーターの固定部分を改良し、高速で回転しても、継ぎ手に損傷が起きないように構造として、継ぎ手は、一体型のもを使用した。今回は、負荷として12V用6Wの市販LED電球を使用した。



駆動モーターとブラシレスモーター（左）

自在継手（一体型）

ブラシレスモーターは3相交流入力なので、発電機として使った場合は出力は3相交流となる。これを、前回同様、倍電圧整流回路で整流して負荷に流した。回転数を上げていくと3,000回転ぐらいで点灯し、4,000回転を超えると明るく点灯した。下に、その様子を示す。電源は、12Vのバッテリーである。4,000回転程度では、入力は1A程度で、電球に流れる電流は400mA位である。



12V用6WLED電球

入力電流



負荷に流れる電流

出力波形

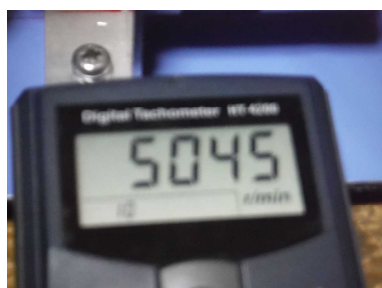
更に、回転数を上げていくとより明るくなり、出力電流は500mAくらいになった。その時の、入力電流は、1.9A位であった。また、その時のモーター回転数は5045rpmであった。



出力電流



入力電流



回転計の値

これからすると、発電効率は約22%位と思われる。効率を上げるにはどのような方法があるか検討中である。

相対性理論の疑問

相対性理論の根拠の一つとして有名なヘイフリー、キーティングの実験がありますが、これは、1971年に、ジャンボジェット機に乗って、地球を東回りと西回りに回ったときに機内の原子時計と地上に置いた原子時計に相対論で想定されたのと同じ時間の遅れや進みが観測されたというものですが、これが最近、その観測結果が捏造されたものであることが判明し、全く根拠のないものであることが判明しました。

アイランドのケリーという科学者が発見したのですが、米海軍測候所にある生のデータと彼らがサイエンス誌に載せたデータと実験報告書のデータは全く違っていたのです。

サイエンス誌のデータと報告書のデータ括弧内

時計の番号	東向き飛行	西向き飛行
120	-57 (-196)	+277 (+413)
361	-74 (-54)	+284 (-44)
408	-55 (+166)	+266 (+101)
447	-51 (-97)	+266 (+26)
平均	-59 (-)	+273 (-)
理論値	-40	+275

というわけで、この話は全くの捏造で恥知らずの行為というしかないのです。これらから、否定されたエーテルの復活が推測されます。